研究機関名：東北大学

受付番号：　2014-1-414
研究課題名 胃酸分泌の年代別変化に関しての検討
研究期間　西暦　2014　11 月（倫理委員会承認後）～　2015 年　10 月
対象材料 □病理材料（対象臓器名　　） □生検材料（対象臓器名　　） □血液材料　□遊離細胞　■その他（すでにパソコン内に連結可能匿名化処理後入力されてある過去のデータの再解析　　） 上記材料の採取期間　西暦　1995 年　4 月～　2014 年　3 月
意義、目的：胃酸分泌は、逆流性食道炎などの上部消化管酸関連疾患の重要な規定因子であり、胃酸分泌の年代別推移を検討することは、今後の日本人における上部消化管の疾患構成を考えるうえで重要である。Kinoshita らは、日本人の胃酸分泌能は 1970 年代に比べ、1990 年代で有意に増加していると報告している(Gut 1997)。これは、食生活の欧米化などにより食事中の脂肪摂取量が増加したためと考えられている。しかし、その後の胃酸分泌の変化に関しての報告はない。今回の研究の目的は、1995 年 4 月～2014 年 3 月までのデータを集計し、この間の胃酸分泌の推移を評価することである。
方法 今回の検討では、健常日本人における胃酸分泌の年代別推移を検討するために、1995 年 4 月～2014 年 3 月に東北大学病院消化器内科でスクリーニング目的で上部内視鏡検査を受けたもののなかで、内視鏡検査で器質的異常を認めなかった男性症例 307 例を解析対象とした。これらの症例では、内視鏡検査と同時に EGT 法にて胃酸分泌を評価している。これまで検討してきた症例では、男女比が不均衡であり、男性が圧倒的に多数であったため、今回は男性のみの検討とした。年代を 1995－1999 年、2000－2004 年、2005－2009 年、2010－2014 年の 4 期に分けて、年代と胃酸分泌の関連を回帰分析を用いて解析する。さらに胃酸分泌に影響を及ぼすことが知られている年齢、体重、H. pylori 感染の有無、喫煙の有無で調整した重回帰分析を用いて、年代と胃酸分泌の関連について検討する。
問い合わせ・苦情等の窓口 東北大学病院消化器内科　飯島克則 住所：仙台市青葉区星陵町１－１ 電話番号：022-717-7171